

早稲田文理専門学校

自己評価報告書
(平成29年度)

平成25年3月文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」

評価項目一覧

1. 学校の教育目標

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

- 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）
- 学校における職業教育の特色は何か
- 社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか
- 学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
- 各学科の教育目標、育成人材象は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか

(2) 学校運営

- 目的等に沿った運営方針が策定されているか
- 運営方針に沿った事業計画が策定されているか
- 運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
- 人事、給与に関する規定等は整備されているか
- 教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか
- 業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか
- 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
- 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

(3) 教育活動

- 教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか
- 教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか
- 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか
- キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか

- 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか
- 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか
- 授業評価の実施・評価体制はあるか
- 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
- 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
- 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
- 人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか
- 関連分野における業界等との連携に置いて優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか
- 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか
- 職員の能力開発のための研修などが行われているか

(4) 学修成果

- 就職率の向上が図られているか
- 資格取得率の向上が図られているか
- 退学率の低減が図られているか
- 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
- 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5) 学生支援

- 進路・就職に関する支援体制は整備されているか
- 学生相談に関する体制は整備されているか
- 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
- 学生の健康管理を担う組織体制はあるか
- 課外活動に対する支援体制は整備されているか
- 学生の生活環境への支援は行われているか
- 保護者と適切に連携しているか
- 卒業生への支援体制はあるか
- 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
- 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

(6) 教育環境

- 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
- 防災に対する体制は整備されているか

(7) 学生の受入れ募集

- 学生募集活動は適正に行われているか
- 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
- 学納金は妥当なものとなっているか

(8) 財務

- 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
- 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
- 財務について会計監査が適正に行われているか
- 財務情報公開の体制整備はできているか

(9) 法令等の遵守

- 法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
- 個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか
- 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
- 自己評価結果を公開しているか

(10) 社会貢献・地域貢献

- 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか
- 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
- 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか

(11) 国際交流

- 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行われているか
- 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか
- 留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか
- 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

平成25年3月文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、平成30年5月に以下の通り、学校自己評価を実施しました。

1. 学校の教育目標

〈教育理念〉

21世紀の日本と世界で、新しいビジネスに挑む、クリエイティブで社会に役立つ人材を育成する

〈校訓〉

「自主・創造・誠実 ～学び続ける者だけが成功する～」

「自主」とは「自分の頭でものを考え、自らの行動に責任をもつ」こと

「創造」とは「自らの希望と夢を追求し、創造的に生きる」こと

「誠実」とは「人との約束を守り、誠実に生きる」こと

〈教育方針〉

「一人ひとりを大切に、各人の能力と個性を最大限に伸ばし開花させることを教育の基本とする。授業は“親切・丁寧・わかりやすく”をモットーとする。」

〈教育目標〉

1. 産業界が求める専門知識、専門スキルの修得
2. デザインを形にできる能力の育成
3. コミュニケーション能力の育成と人間的成長
4. 希望者全員の就職

〈教育課程の編成〉

中央情報学園は、「専門知識」「専門スキル」「ヒューマンスキル」の3本柱により教育課程の体系化を図る

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

本年度においても、学生の成長（教育の成果）、教職員の成長、学園の成長という「3つの成長」を持続的に達成していくことを基本とし、社会の要請や時代の変化に対応しながら、教育の成果を出し、教育の質向上を図ることを重点目標とした。

- (1) 留学生の教育実績、就職実績で、名実ともに首都圏ナンバーワンを目指す。
- ①留学生からも日本語学校からも信頼され人気のある学校を目指す。
(留学生アワーズの連続受賞)
 - ②就職希望者全員の就職
 - ③近隣地域からも信頼される学校を目指す (ボランティア活動の推進)
 - ④学生や日本語学校からの要望が多かったビジネス系2年制学科「営業マネジメント学科」の平成30年度新設へ向けての準備を進める
- (2) クリエイター分野を中心に、質の高い日本人学生を受け入れ、教育効果をあげる。
- ①30年度は「ゲームクリエイター学科」の定員増を計画 (現在28名→38名)
 - ②2号館開設、日本人学生数増加に伴い教員の増員を検討
 - ②文科省委託事業でのゲーム・CGクリエイター分野の継続
- (3) 2号館を活用した「専門職大学院」設置計画の策定
- ①文科省委託事業でのAI研究、AI・ITマネジメント分野への展開
 - ②AIビジネス研修講座 (短期プログラム) の実施を計画

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

①採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
b	学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか	4
c	社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか	4
d	学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	4
e	各学科の教育目標、育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか	4

②現状

- a. 学園創設者の経営理念と教育理念に基づき、教育方針・教育目標は明確に定められている。平成29年度は学園創立31年目となり、「30周年記念誌」が教職員全員に配布された。これまでの学園の歩みを踏まえた学校の理念および教育目標、育成人材像を示され、教職員全体会議を通じ、全教職員に徹底している。育成人材像は学科の専門性を考慮した上で明確に定められている。

- b. 当校の特色は、デジタルコンテンツのクリエイター、ビジネス起業、営業マネジメント、組み込みソフトウェア技術者、インバウンドの通訳・ガイドなど新たな成長分野の人材育成を目指した多様な学科構成である。近年は学科ごとに企業との連携に力をいれており、産学連携を取り入れた実践的な授業をカリキュラムにとりいれている。
- c. 当校の目的として、「広く 21 世紀の国際社会に貢献できる文科理科融合の創造的で有為な人材を育成する」ことを掲げており、経済のグローバル化に対応できる国際人材の育成を目指して、留学生の受け入れを積極的に行っている。また、将来的構想として「専門職大学院」の開設を視野に入れ、計画中である。
- d. 教育理念や教育目標は、学校 Web サイトや学生募集用の「学校案内」等に明記することを通じ、学生・保護者に周知を図るとともに、学生には入学時および進級時に配布する「オリエンテーションガイド」に記載し、毎年オリエンテーションにて確認している。
- e. 各学科の教育目標や育成人材像に関しては、教育課程編成委員会や連携企業等、業界の方々からのニーズや業界動向を踏まえ、作成している。

③課題と改善策

- ・特になし

(2) 学校運営

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
b	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
c	運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
d	教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	4
e	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
f	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
g	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
h	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

②現状

- a. 学校の運営方針、目的、目標等については明文化されており、それに基づき、副校長、教頭、学科長による定期的な部門長会議・校務運営会議を開催し、目標に沿った運営を進めている。

- b. 事業計画は、運営方針に基づき、毎年関係部門にて作成されており、その進捗状況は各部門長、担当者より月次報告として理事長・校長に毎月提出されている。月次報告の分野別担当者は、年度ごとに検討して選定している。
- c. 理事会・評議員会での意思決定事項は寄附行為について定めており、主要項目については理事会・評議員会にて決定している。日常の業務運営については理事長・校長の下、副校長、学科長、各部門の主事・主任の責任において、適切な意思決定、組織運営を行っている。
- d. 年度当初に校務分担の中に教務担当、財務担当等を配置し、上司への報告・連絡・相談、稟議書等により適切に意思決定が行われている。
- e. 人事考課制度、給与制度、就業規則等の規定については整備され、定期的に見直しがされている。
- f. 関係法令の遵守のみならず、社会規範の遵守についても、教職員に適時適切に指示・訓示を図るとともに、学生に対しても全校集会・ホームルーム・安全講話等を通じて、きめ細かく指導している。
- g. 本校の概要や教育活動等を広く理解していただくために、「学校基本情報」や「学校関係者評価報告書」等の情報を学校 Web サイトにて公表している。また、学校の行事や各種イベントについては個人情報保護に配慮の上、学校ホームページに随時掲載している。学園理事会、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会などにおいても、関係者に対して報告、説明が行われている。
- h. 校内開発システムを、学生の出席及び成績管理、教職員の経費精算などに活用している。教務共用サーバーにて教職員同士の共有化を図り、業務の効率化を推進している。また、クラウド上で動作するグループウェア「Aipo」を活用し、教職員がいつでも学内スケジュールや各職員の予定を確認し、組織の活性化・情報共有に役立てている。

③課題と改善策

- ・法令遵守については、教職員の意識の更なる徹底、また学生に対しては遵法精神がより深く浸透できるよう随時検討の必要がある。学生選考に関する見極めの基準も統一することが必要。

(3) 教育活動

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか	4
b	教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
c	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
d	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
e	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか	4
f	関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	4
g	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
h	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
i	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
j	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
k	人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	4
l	関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか	4
m	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか	4
n	職員の能力開発のための研修などが行われているか	4

②現状

- a. 一人ひとりを大切にし、各人の能力と個性を最大限に伸ばし開花させることを教育の基本とし、教育課程の編成、実施計画等を策定している。
- b. カリキュラムは既定の修業年限に対応した学習時間とともに作成されている。また、各修業年限における到達レベルの把握を目的とした「総合力テスト」を実施している。「総合力テスト」の成績優秀者は一覧にし、ロビーに掲示している。
- c. 学科等のカリキュラムは各修業年限における到達レベルの目標を考慮したうえで設定されており、体系的な構成となっている。
- d. 各学科ともに関連分野の企業・協会と連携し、特別講義の開催や校外学習を実施している。特に、IoT・組込みソフトウェア学科では関連分野の企業を講師とした科目を開講している。また、クリエイター系学科では、チームでのゲーム制作を中心に実施すること

で、より実際の制作現場に近い環境での実践的な学習を行っている。

- e. 教育課程編成委員会に関連分野の企業・団体からの委員を迎え、客観的なカリキュラム評価・見直し・改善が継続的に行われている。
- f. 職業教育は育成人材像や業界のニーズを踏まえ、知識・技術・ヒューマンスキルの各分野に分類され、体系的に位置づけられている。
- g. 授業評価は、非常勤講師を含む全教員が、お互いの授業を観察・評価しあう「ピアレビュー」と、学生による授業アンケートとの2段階で実施している。
- h. 教育課程編成委員会において各委員より評価をいただき、改善に努めている。
- i. 成績判定会議、進級判定会議、卒業判定会議などの会議が定例的に行われ、評価基準も明確である。
- j. 資格取得については学科ごとに目標とするべき資格を定め、カリキュラム上明確な科目を設定し、授業を行っている。また、目標資格については通常時間割とは別に特別授業を実施し、学生の資格取得を支援している。さらに、難易度の高い検定については準備段階として「校内検定」を設定し、学生の到達度を測る指標の一つとしている。
- k. 学科の教員については、専任、非常勤ともに、授業を行う上で必要な専門性、人間性、教授力と業界経験をもとに採用を行っており、育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員の確保が行われている。
- l. 産業界から教員を招聘し、各学科の教育目標や育成人材像を踏まえた授業を行っている。実務経験豊富な企業の技術者による授業は学生にも好評である。
- m. 各教員に必要と思われる研修などについては、積極的に参加している。また各種展示会などにも関連科目の教員を派遣し情報収集を行っている。
- n. 関連分野の協会・団体が主催の研修会や会合に参加し、新しい知識・技術、業界の動向等を学習している。また、半期ごとに教職員研修会を実施し、各教員が参加した研修会や展示会の報告をしている。

③課題と改善策

・特になし

(4) 学修成果

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	就職率の向上が図られているか	4
b	資格取得率の向上が図られているか	4
c	退学率の低減が図られているか	4
d	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
e	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

②現状

- a. 就職に関しては、就職部長を中心に学校全体で取り組んでいる。現在、開校8年目を迎え、就職率は100%を維持、卒業生に占める就職者の割合も年々向上している。複数の企業を招いての「校内合同企業説明会」や、個別の企業説明会等を実施するなど、手厚い就職支援体制をおこなっている。また、平成29年度には就職支援室を開室し、学生が自由に求人情報の閲覧や履歴書の作成、印刷ができる環境を整備、平成30年度より本格運用を開始する予定である。
- b. すべての学生の資格取得状況は一元管理されており、常に最新の状況が確認できるようになっている。また、当校在学中に資格を取得した学生については、校内に顔写真とともに掲示することで、他の学生への意欲づけとなるような取り組みをしている。
- c. 退学者は年々減少している。退学率を低減するために、学生指導担当者と担任教員の連携により、個人面談、電話連絡等、きめ細かく行われている。過去の入退学者数推移については、既にデータ化され、明確に管理され活用されている。
- d. 各学科の卒業生が、関連分野の企業等に就職することが出来ており、業界からも学修成果に対して高い評価を得ている。また、留学生の在校生は、平成28年10月より、目白警察と合同で大規模災害に備えた語学支援ボランティアを育成し、地域に貢献できる体制を構築している。
- e. 卒業後は、就職先の担当者からそれぞれの学生に対する評価をいただき、学習成果の把握に努めている。産業界からのニーズを把握し、より実践的な職業教育を実施できるよう、柔軟なカリキュラムを編成している。

③卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価について

- ・平成 29 年度は、クリエイター系学科より「株式会社シフォン」に就職している。また、IoT・組込みソフトウェア学科より「リクルートR&D スタッフイング」、日中越英通訳・ガイド学科より「株式会社アリビラホテルマネジメント（ホテル日航アリビラ）」等に就職している。
- ・クリエイター系学科の学修成果の一つとして、東京都情報産業協会主催のアプリコンテストにて優秀賞と準優秀賞を 2 つ受賞し、また昨年同様に学生作品コンテストにおいて熱中日和賞を受賞することが出来た。東京を基盤とした IT 企業団体からの評価を受けるコンテストと多くの現役クリエイターが直接評価をするコンテストの二つのコンテストの受賞によって、ゲーム作品のクオリティに対して一定の評価を頂くことが出来ている。

③課題と改善策

- ・卒業後のキャリア形成への効果の把握と学校の教育活動の改善への活用については、組織的かつ継続的に行われるような仕組みづくりが引き続き必要である。

(5) 学生支援

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
b	学生相談に関する体制は整備されているか	4
c	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
d	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
e	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
f	学生の生活環境への支援は行われているか	4
g	保護者と適切に連携しているか	4
h	卒業生への支援体制はあるか	4
i	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
j	高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4

②現状

- 進路・就職に関する体制は整備されており、副校長・就職部長・学科長・就職担当・クラス担任による進路指導会議を定期的で開催し、個々の学生に対する指導方針を協議して共有をはかっている。また、具体的な就職指導（履歴書の書き方、面接対策等）については、授業カリキュラムの中に組み込んで支援を行っている。複数の企業を招いての「校内合同企業説明会」や、個別の企業説明会等を実施しているほか、平成 29 年度より就職支援室を開室し、求人情報を各担任へと発信している。説明会・面接試験の参加者

についても情報を共有できるよう、全員の見られるフォルダーにまとめて保存している。

- b. 学生相談については、校長―副校長・教頭―学科長―クラス担任―学生指導担当が連携し、学生一人ひとりに対して親身の話し合いと助言・指導をおこなっている。各クラス担任はクラス全員の学生面談を定期的実施し、個別に状況を把握している。
- c. 学費については、本校独自の学費減免制度の他、前期・後期の分納制度を設けている。奨学金に関しては、日本学生支援機構の学習奨励費を活用している。また、本校独自の学習奨励金制度を設けており、優秀な学生に対し修学を支援している。さらに、学業や社会活動、資格取得など様々な場面で成果を挙げている学生を評価し、学生の意欲を高めることを目的に、表彰制度を設けており、卒業式において表彰を行っている。
- d. 定期健康診断を毎年、学校行事に組み込んで確実に実施している。学校の近隣のクリニックで定期健康診断を行っており、学生が健康相談等を必要とした際は、このクリニックを利用している。クラス担任や学生指導担当が連携して、必要に応じて病院への付き添い等も行い、日常的に学生の健康管理に留意している。
- e. 卒業旅行、バーベキュー大会、国際文化交流会、芸術鑑賞会等、校内行事は毎年、定期的に授業時間内で実施をしている。授業時間外のボランティア等の課外活動については、学生からの申し出があれば随時支援をする体制ができている。また、アルバイトについては、定期的に内容や勤務時間について調査や指導を行い、必要であれば紹介も行っている。
- f. 本校と提携した学生寮の紹介を行っている。その他、学生からの依頼があれば、部屋探しの方法を指導している。
- g. 入学が決まった際には、必ず実家の保護者に電話連絡を行っている他、問題発生時についても随時連絡し、コミュニケーションを密にしている。
- h. 卒業生からの希望に応じ、個別に資格取得や再就職先の支援を行なっているほか、留学生生に対しては就労ビザ取得や在留に関する相談・支援を行うなど、卒業後も継続してフォローをしている。
- i. ゲームクリエイター学科では、平成 30 年度に東京都専門人材育成訓練を実施するよう準備を進めている。

- j. ゲーム・CG業界と専門高校との連携体制を構築し、高校への出前授業や企業講演の実施、高校生インターンシップの受け入れ、専門高校教員向けの技術講座や教員研修を実施している。

③課題と改善策

- ・就職をした卒業生に対しては、就職先の企業の担当者に協力いただいたうえで、インタビュー等を実施し、学習成果の把握に努めている。また、早急に同窓会の体制を整備し、卒業生と学校を連携させた校友組織を構築すべく検討している。

(6) 教育環境

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
b	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
c	防災に対する体制は整備されているか	4

②現状

- a. 平成 26 年度に実施した実習室の増設、パソコン入替、学生用イスの入替等による教育環境により、施設・設備は整備されている。また、平成 28 年度より 2 号館の一部教室の利用を開始、平成 29 年度 9 月より使用教室の拡大、同 3 月には 2 号館の改修工事が完了し、さらなる設備の充実をもって、平成 30 年度を迎えることになっている。
- b. インターンシップに関しては、外部の関係機関と連携し、積極的に実施している。インターンシップ実施時には、校長の許可および教員と先方の企業との打ち合わせが必要となっており、すべての学生の実施状況が把握できるようになっている。また、インターンシップ実施後、学生は「研修報告書」を、先方の企業は「学生評価票」を作成し、その成果を評価している。また、東京商工会議所発行の『インターンシップ・職場体験ハンドブック』を先方の企業にも提供し、様々なインターンシップの方式を提案するとともに、覚書などの書式もこれに準じたものを使用している。
学外研修については、学科毎に年 2 回程度、実施している。
- c. 教職員による消火訓練の実施、学生の防災訓練を実施している。防災訓練の際、災害発生時における具体的行動のマニュアルを配布し、学生に説明を行っている。
また、開校時より AED を設置し、平成 29 年度までに 3 日分の災害時備蓄品（水・食料・

簡易トイレ・ブランケット等)を確保している。また、平成30年度の初めには2号館にもAEDを設置予定である。さらに、教職員は順次普通救命講習を受講し、心肺蘇生法の習得、AEDを使用できる体制を整えている。

③課題と改善策

- ・特になし

(7) 学生の受入れ募集

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	学生募集活動は適正に行われているか	4
b	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
c	学納金は妥当なものとなっているか	4

②現状

- 学生募集は入学希望者およびその保護者のニーズに対して適切に行われている。
東京都豊島区学事課の指導及び東京都専修学校各種学校協会の申し合わせ事項を守り、個人情報の取り扱いや入学願書受付期日等に留意し、適正に実施している。
学校案内、募集要項等については見やすさと分かりやすさを考慮して、社会ニーズや状況変化に合わせ毎年細かな改定を行っており、読む側の視点に立ったものになっている。
また、日本語学校の教職員向けの入学説明会を実施して学校の情報を提供し、教員の理解と協力を優先して求めている。
昨年度の募集活動では、募集定員の3倍程度の応募者があったことから、入試システムを一部改訂し、速やかな選考と結果通知を行った。
- 高校や日本語学校が主催する進学説明会等において、学校案内や資料を用いて最新の教育内容や教育成果を伝えている。オープンキャンパスでは、学科ごとの入学から卒業までの教育内容やカリキュラム、卒業してからの進路状況やフォロー体制について説明を行っている。また、体験授業によって学科の特色を示した学生募集を行い、入学後に受講できる実習教育の内容をわかりやすく示している。
- 学納金は都内の近隣の専門学校と比較しても非常に低く設定されており、妥当なものとなっている。入学辞退者については、辞退理由と時期に応じた規定によって、適正な返還処理を行っている。また、学納金については、入学金、授業料、施設設備費等すべてを募集要項に明記している。

③課題と改善策

- ・特になし

(8) 財務

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
b	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
c	財務について会計監査が適正に行われているか	4
d	財務情報公開の体制整備はできているか	4

②現状

- 財務基盤は計画的に強化され、安定したものとなっている。その結果、負債比率、負債償還率は文部科学省の大学設置基準の財務基準をクリアしている。
- 予算、収支計画は無理のない実現可能な計画を策定しており、予算と実績間に大きな乖離は発生していない。
- 会計監査は、実務に精通した前事務局長を監事とし、監査を厳正かつ適正に実施している。
- 決算完了次第最新の財務情報をホームページ上に公開している。

③課題と改善策

- ・特になし

④特記事項

- ・情報公開については、学校法人単位での公開となっている。

(9) 法令等の遵守

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
b	個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか	4
c	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
d	自己評価結果を公開しているか	4

②現状

- a. 寄附行為・経営理念・教育理念等において法令や専門学校等設置基準の遵守を明記しており、教職員研修会等の実施時に徹底を図っている。学生に対しても厳格に法令を遵守させるべく、ホームルームでの指導及び管轄の目白警察署による講話を行っている。特に外国人留学生に対して日本の法令等を理解させ、守らせるように、今後もひきつづき積極的に啓発していく必要がある。
- b. 個人情報保護方針にもとづき、各種対策を実施している結果、個人情報漏えい事故は発生していない。また、マイナンバーの取扱いについては極めて厳格な対応を行っている。学生に対してもマイナンバーにより行政機関等では情報連携がされていることを周知徹底している。
- c. 自己評価にあたっては、学校長を委員長とする「校内自己評価委員会」が中心となり、文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」(平成 25 年 3 月)により、毎年定例的に実施している。自己評価結果は、関係教職員が問題点の改善に努めている。
- d. 学校自己評価報告書及び学校関係者評価報告書は、学校の Web ページに掲載することにより公開している。

③課題と改善策

- ・個人情報の取り扱いについては、今後も教職員にプライバシーポリシーについて周知徹底を図っていく。また学生に対しても、学校内外において日本の法令を守って学生生活を送ることを、継続して厳しく指導していく。

(10) 社会貢献・地域貢献

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
b	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
c	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	3

②現状

- a. 本校は多様な分野の学科を持つことから、多種多様な教育機関や企業・団体と関わりを持ち、交流を図っている。管轄の目白署・豊島区・北区・東京都生活文化局など協力先も増え、各方面でのボランティア活動に積極的に参加し、地域貢献に取り組んでいる。
- b. 学生のボランティア活動に関しては大いに奨励をしており、参加意識も非常に積極的になってきた。昨年度は目白警察署の依頼による災害発生に備えた語学支援ボランティアや特別養護老人ホームでの避難訓練実習などを実施した。学校近くの高南地区「区民ひろば」との協力により、地元のお年寄りとの交流活動も計画中。また、こうした外部協力のプログラムのほか、自主的に学校近隣の落葉清掃、降雪後の雪かきなどの活動も行った。
- c. 開校前の平成 21 年度より東京都の委託を受け、再就職を目指す社会人の職業訓練を実施し、IT、医療、簿記等の分野で高い成果を挙げてきた。現在は委託訓練は行っていないが、平日の夕方および週末に、豊島区主催の地域公開講座等の開催を検討している。

③課題と改善策

- ・社会貢献の意識を持った学生が増え、奉仕活動への参加意識は高まりつつけている。今後は地域や身近でできる活動や災害支援など組織規模の大きな活動のほか、2020 年東京オリンピック・パラリンピックにおける各種ボランティアも奨励し、大きな経験の機会を与えたい。

(11) 国際交流

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行われているか	4
b	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
c	留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか	4
d	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3

②現状

- a. 留学生については、留学生の在籍学校と連絡を密にし、日本語能力、基礎学力だけではなく、適性、学費支弁能力、資格外活動状況等もしっかりと確認した上で受け入れを行っている。平成 28 年度は「日本語学校の教職員が選ぶ留学生に勧めたい進学先」を決める、日本留学 AWARDS を受賞した。今後も受賞を目指し、より良い学校づくりに励んでいる。
- b. 留学生については、入学時から募集要項に則り、個別に相談し、入学後も学則、法令の遵守および日本での生活も含めて指導している。在籍管理については文部科学省、東京入国管理局、豊島区への報告を正確かつ遅滞なく行っている。
- c. 学生の学修・生活指導については、クラス担任と学生指導担当が協力して、継続的な面談や日々の声かけ等で留学生とのコミュニケーションに努めている。また、毎週の担任会議や校務運営会議において学生動向について情報の共有化を図っている。
- d. 育成人材像をもとに学修成果を評価するしくみは学科ごとに作られており、学外のコンテストやインターンシップにも積極的に参加をしている。平成 29 年度は東京都情報産業協会主催 IIT スマートフォンアプリアワード 2017 において優秀賞・準優秀賞を、一般社団法人 Japan Entertainment 開発協会主催 Creator Conference for Students 2018(学生作品コンテスト)において熱中賞を受賞した。

③課題と改善策

- ・学修成果が国内外で評価される取組みについては、学校ホームページを活用して情報発信を行なっているが、今後更に各種コンペティションの参加やその入賞実績を積極的に発表していく必要がある。